

第5回長浜市未来創造会議 会議録

I 日時 令和6年10月8日（火曜日）10時00分～12時00分

II 場所 長浜市役所本庁5階 5-A会議室

III 出席者 鵜飼 修委員（座長） 岩寄 博論委員（副座長）
桐畑 裕子委員 北川 富美子委員
藤谷 法子委員 松井 善典委員 磯崎 真一委員
小出 篤委員 中川 香奈子委員 船崎 桜委員 計10名

【事務局】 未来創造部 中嶋部長、村崎次長
政策デザイン課 手崎課長、服部課長代理、山崎係長、野村主査

IV 内容

1 開会

事務局 開会を宣言

2 部長あいさつ

部長 【部長挨拶】

3 議事

(1) 地方創生推進交付金事業の効果検証について

事務局 資料「01-1」「01-2」に基づいて説明。

- 委員
- ・ 観音というコンテンツは十分ご活躍されたと感じる。
 - ・ 歴史的に見ても京都や奈良と比べて滋賀は弱く、普通にポスターを貼って、施設を建てて、という戦い方ではなく別の方法をとった方がいい。例えば、今後も東京観音堂で箱を使い続けるのであれば、1ヶ月ごととか、季節ごとにそのときの一番旬なものとタイアップする抱き合わせ戦略・・・例えば「連ドラ」とか、「朝ドラ」とか、そういうもので動線を作って、そこから長浜に人が来るように入口を付け替えていくようなやり方である。
 - ・ 奈良の国立美術館で空海さんが大バズリしているときに、奈良駅などに“長浜にも空海が作ったお寺がある。”と言って写真を出せば、明日行ってみようかなという人は出てくるかもしれない。
 - ・ つまり、「長浜にこんなものがあるよ」というのを、柔軟で弾力的にで

きる情報発信をやっていくようにした方がいい。

- ・ 観音堂はよかったと思う。震災もあって、いろいろな人たちに寄り添った企画だったと思うのでこれはこれですごく良かったと思う。しかし、次の 10 年はただ観音様を設置するというのでは通用しないことも考えられる。流行りのものとのタイアップや、情報発信、動線づくりに力を入れた方がいい。

委員

- ・ 長浜市の空き家バンクの活用実態、課題があれば共有してほしい。
- ・ 長浜の地域おこし協力隊の方も含めて移住者がかなり増えてきて、全国的に見てもかなりうまく行きそうな雰囲気があるなという中で、「古民家みたいなのところに住みたいけれど、なかなか家が見つからない」という声も聞く。オーナーさんの方もなかなか出しにくいみたいな状況があることも伺っていたりするが、その辺り課題みたいなことが認識としてあれば、共有してほしい。

事務局

- ・ 空き家バンクの活用については、「空き家」かどうか、活用できる状態なのかどうか、というところの把握が難しく、まずはそこを全件調査することで活用に繋げていこうという段階であり、調査後にはオーナーの方へご意向を聞いていく予定である。
- ・ 空き家活用の課題は多岐に渡るものであると理解している。なかでも所有者の方が「空き家を活用する」ということに対して、費用の問題や大切な先祖代々の家屋なので荒らされたくないだとか、さまざまな感情があると思うので、その点のすり合わせ、マッチングを上手く行っていくことが重要と考える。

委員

- ・ 全件調査はいい試みと思う。状況把握はとても重要で、家って住まなくなると状態が悪化していくので、空き家になって間もないタイミングで状況把握できて、うまくマッチングが進むという全体像がうまく設計できるといいかなと思う。

事務局

- ・ 昨年度、松井先生からもおっしゃっていただいていたかと思うが、「古民家」に住むということが逆に価値を感じる方もおられる。そういった層にアプローチできる、することも必要な視点かと思うので、まずは全件調査等で土台固めしていきたい。

座長

- ・ 多賀町では、空き家対策の推進に関する特別措置法の 24 条に基づく支援法人に名乗りをあげてくれる事業者のネットワークを作っている。
- ・ 空き家はあってもそのまま使うのは難しい場合が多いが、自分たちでリノベーションとかもされる事業者が集まっており、リノベーションのフォローができる。
- ・ 空き家があったらすぐに押さえて、所有者には買ってほしいのか賃貸なのか、仏壇を残してほしいのか全部確認して対応している。リノベ

- ーションして使えるようになるまでの間を埋めるような組織はいると思う。工務店などに頼むと非常に費用がかかる。親身にお金がかからない方向にもってきってくれるような仲介者というのが望ましい。
- 事務局
- ・長浜市では、「空き家バンク」がまさにそういった役割を担っていて、空き家改修等については補助金も用意している。また、中心市街地については空き店舗も目立ってきており、店舗の改修には補助金を出したりして活用いただけるように政策を進めている。
- 委員
- ・空き家バンクの運営会議に出席している。
 - ・実際問題、費用面がネックとなっている。生活するための最低ラインのところまで修繕するにも100万円200万円かかったりするが、長浜市の補助金とかでは10万円程度しか支援されない。
 - ・空き家の登録自体は100~200件あっても、費用の面で選択肢から外れてしまう。若い人でありお金の無い人でも、とりあえず住めるといった状態までのサポートがあると言えるようにしていかなければならないと感じる。
- 座長
- ・方法の一つとしては、家賃で回収できるようにして貸し付けるということ。自分がやっているのはまさにそういう形で建物を買ってリノベーションしてから協力隊に貸している。あらかじめ家賃が入るとわかっているのだから、それを見据えて投資するという手法を取っている。
- 委員
- ・賃貸になると若い人にとってもハードルが下がる気がする。一方で所有者に賃貸してくれというのはハードルが高いかもしれない。みんな手放したくて空き家バンクに登録される。
- 座長
- ・それをまとめて買い取ってくれる団体を作ればいい。うちのNPO法人はそういうことをしている。
- 委員
- ・古民家に移住したい人は、若い方が多いのか、年配で仕事をやめられている方が多いのか。
- 委員
- ・多様である。セカンドライフ的な方もおられれば、30代40代の方で小さなお子さんを連れて帰りたいという方もおられる。
 - ・単身で若い方もおられるが、予算面で難しいという話が多い。
- 委員
- ・木之本宿にも空き家がかなりあるが、中を直して住むまでにとっても費用がかかる。また、所有者がなかなか貸してくれなくて、朽ちてしまって、平地になってしまうこともある。
 - ・木之本ではプロの方が空き家を買って、こういう風にできるというモデルハウスをされた。
 - ・きのもと“すむすむ”の会議を行ったが、こういった会議などで古民家を使うようにすると注目を集めるし、アイデアも湧くのではないかと思う。

- 座長
- ・古民家でも使える空間とどうしようもない空間があるので、使えるところは使っていくということが重要である。
 - ・いま自分がリノベーションを手伝っているところは、広間が 32 畳あってヨガ教室とかで使っておられる。
- 委員
- ・長浜市総合計画の方でぜひ検討いただきたいことがある。
 - ・空き家対策というのは空き家になった物件の話ばかりになっているが、先手を打つことが必要と感じる。この先 10 年 20 年後に空き家になってしまう家が当然あるので、今の所有者さんに向けての施策を長期的な視点で行ってほしい。
- 座長
- 委員
- ・終活のセミナーとかで教えてもらうとかはどうか。
 - ・今、葬儀とか納骨とかできない方の御看取りをすることになっている。
 - ・死後事務委任契約という業界もあるが、結構悪徳のものも混ざっていて、お金があるところは言い値で全部財産整理とかするみたいなことになっている。
 - ・本当にこれから孤立する方、最後 1 人で亡くなる方の死後事務委任契約っていうのを福祉としてどう考えていくのか、まちづくりとしてどう考えていくのか。という話にもなってくるのかなと思っている。
 - ・別の会議になるが、長浜市高齢者保健福祉協議会というところでもそれをどこまで民間に任せるのか長浜市でやるのか議論されている。
 - ・間違いなく、孤立世帯では、「家」がその方が亡くなるのと一緒に閉じるっていう時代が来るのは避けられない。「家」が放置されてからどうするって言うのではなくて、その方の終活の一環で、「家」をこの地域の風景としてどう残したいのか、地域の人にどう使ってほしいのかまで話し合いができると、いろいろな形で継承できるものがあるように思う。
- 座長
- ・福祉のアプローチとして、終活の話までをセットにした相談などができるようになればいいと考える。
- 委員
- ・財産整理のなかで葬儀と納骨の費用が出るとか、その事務をどうやって回していくかっていう循環を作らないといけない。一方向でなく、整理しながらちゃんと収入も得られるような事業にしていくことで「持続可能」となる。
- 委員
- ・デジタルの観点から、空き家について住民からのクレームを受けて初めて市役所が空き家と認識するケースが非常に多い。そういう空き家は朽ちている状態が多いので、いかにフレッシュな空き家を空き家として認識するかが重要となる。固定資産税の家屋データと水道使用量のデータを突合すると、「家屋はそこに立っているが水道が使われてない」＝「空き家」と認識できる。こういうデータを使って空き家ができるだけ早く捕捉するということをまずは担当課にやっていただ

きたいと思う。

- ・ 観音の事業に関して、情報発信の方法に問題があると感じている。今の情報発信は「メール」と「Facebook」だけだが、その二つをしっかりと見ているのは高齢者がほとんどで、特に若い人はメールをあまり開かないし、Facebook もほとんどがアカウントを持っていない。なので、「Instagram」での発信を追加する必要がある。場合によっては、Facebook とかメールはもうやめてしまってもいいのではないかとも思う。若い人でも仏像ファンは結構いるので、情報発信の仕方を変えるだけでもそういった需要が掘り起こせると思う。

(2) (3) 第3期長浜市定住自立圏共生ビジョンの変更及び

長浜市過疎地域持続的発展計画掲載事業の進捗状況について

事務局 ・ 資料「02」及び「03」に基づいて説明。

- ・ 来年度から「長浜市総合計画」の見直しも始まるため、定住自立圏共生ビジョンや過疎地域持続的発展計画よりも広域な視点での政策・まちづくりに関しても意見いただければと思う。

座長 ・ 資料の地域ごとの人口減少の数値は「自然減」も含まれているのか。そうであれば、社会減と自然減で分けた考え方が必要である。

- ・ 自然減でも空き家は出てくる可能性がある。

事務局 ・ 自然減も含まれている。

座長 ・ 過疎の事業のなかで医療にお金がかかっているように見て取れるが、これはどういったものか。

事務局 ・ 電子カルテの導入が大きく事業費を占めている。

委員 ・ 定住自立圏共生ビジョンの資料7頁、均衡ある発展という言葉があるが、前時代的に感じる。

- ・ 長浜は広域であり、均衡のとれたミニ長浜ができて魅力に感じないと思う。地域の独自性を生かした特色ある発展とする方が、現実味があるように感じる。

事務局 ・ 次のビジョン見直しの際には、参考にさせていただく。

委員 ・ 地域ごとの役割分担という話があった。私も地域独自性を生かした特色ある発展という方向性に賛成である。

- ・ 京阪神の引力があるため滋賀県では南高北低の雰囲気があり、南の方に人口も含めて流出してしまう傾向にある。また、市内のなかでも旧木之本や旧高月の地域から旧長浜の方へ流れていってしまうのが大きな課題と感じている。

- ・ この週末に木之本でコーヒーフェスが開催されていて大学の研究室で出店したが非常に雰囲気の良いイベントであった。江北図書館が世代替わりし、新しい運営の方々に変わって盛り上がりを見せている。

「本のまち、木之本」とか、ある種“文化の拠点”みたいな感じになって非常に面白い方向性だと思っている。

・また、伊香高校で森の探求科が始まることになっており、長浜市には様々な特徴ある場所があると思うので、それぞれの場所に関心をもった方々をどう集めていくかという構造を戦略的に取り組んでいく必要がある。

事務局

・必要な視点と思う。

・すでに検討を進めている南長浜地域まちづくりにおいても、様々なまちの資源や特徴を生かした「まちづくり」を考えている。

・南高北低とあったが、長浜市の南ばかりに力を入れてはいけないという視点ももちろんある。過疎計画や定住自立圏共生ビジョン等で財源を確保しながら北部地域をどうしていくか、どう特長を生かしていくかは重要であり、今後の政策的な視点で皆さまから意見いただけたらと思う。

委員

・伊香高校の森の探求科について、県外から生徒が来る可能性があるなかで、あまり予算が無い。県外からの子どもたちの生活支援をどうしていこうかという話もある。遠方の生徒向けに寮を設置される高校があると思うが、予算の問題なのか、自治会で支えてやってくれないかという打診もあった。空き家を寮として使って、寮母の役割を地域で担当してくれないかということである。

・自分としては田舎ならではの良いところを出せるチャンスと感じており、成功させたいと思っている。

・まちと高校が繋がって、まち全体で見守っていくことで、生徒たちが卒業後もここを自分たちにとっての田舎だと感じてくれれば嬉しい。これが一つのモデルになればと思っている。

事務局

・昔ながらの「ごはんを食べさせる」という形態は、今の時代においてアレルギー等さまざまな問題もあって難しい可能性もある。一方で、寮を建てるということは費用対効果を鑑みるに、現実的ではない。

・木之本は一人で住めるような賃貸が点在しており、飲食店も少ないので地域の方々が普段の営業のなかで少し「割引」してあげるなどの方法を取ってはどうか。一定の生活費等の徴収を地域でされ、持続できるようにできたらいいと感じる。

委員

・その点については、伊香高校の会議（コンソーシアム）で十分にご意見いただいた上で我々に地域で支えてやってほしいという話が来ている。

座長

・徳島県神山町のように丸ごと地域で面倒を見るような仕組みができれば、地域や人に愛着を持ってくれるとは思いますが、モデル地域に指定して安易にお金をつけない方がいいと感じる。

- ・ 隠岐島前高校が参考になると思う。ここは寮生活だが、地域の人と
ころにホームステイする仕組みがあったりする。
- ・ 伊香高校の件は、利益を求めなくていいので、必要経費を出してもら
うというコミュニティビジネスの形で実行すればいいと思う。
- 委員
 - ・ 定住自立圏共生ビジョンの変更点について、「合理的配慮支援員」とい
う言葉が「総合育成支援員」に変更されているが、＜事業概要＞では
引き続き「合理的配慮支援」という言葉が使われている。こちらは変
更しなくてもよいか。
- 事務局
 - ・ 担当部署に確認し、検討する。
(確認結果→すべての「合理的配慮支援」という文言を「総合育成支
援員」に修正する。)
- 委員
 - ・ 農業分野について、産業用地の形成などで農地を開発する際に、土地
の所有者に対しては売買による利益が生じる一方で、農地を代理で耕
作している農業者には何の支援もない。農家にとって耕作面積が減少
することで利益が減ってしまうことは大きな打撃である。せめて同規
模の農地を担保してもらうための支援をすとか、耕作面積の少なく
なった農業者と、近隣の農業者との耕作地交換をスムーズにできると
か、行政として何か補助を検討いただきたい。
 - ・ 過疎地域の農家は、山間地での被害や水田の形成について、土地改良
区の資金がないことから整備が行き届いておらず非常に苦勞されてい
る。排水路の老朽化などの農業インフラの整備は農業の維持存続に欠
かせないものであるが、農家が少なくなってきて財源が減少していっ
ている。土地改良に対して補助いただけるとありがたい。
- 事務局
 - ・ いただいた意見について、土地改良区の関係課に共有する。
 - ・ 開発の際の耕作者に対する補助という視点は今までなかったように思
う。補助のイメージは収入補填か、減少した耕作地を補えるようなマ
ッチング支援ということも考えられる。
- 委員
 - ・ 意欲のある農業者に対しては、面積を維持できるように休耕地とのマ
ッチング支援が望ましい。
- 座長
 - ・ まずは農業関係者の意向調査をやった方がいいと考える。調整はその
後かと思う。
- 委員
 - ・ 「医療」の目線から、市立長浜病院と長浜赤十字病院が連携して医療を
提供することが必須である。
 - ・ 長浜市立病院の中期計画を見てみると、定住自立圏や過疎地域持続的
発展計画を基に作られている部分もあるため、それぞれの病院経営に
影響している計画として存在している。
 - ・ あるべき姿を考えると、人口が減っていくなかこんな大きな病院は2
つも必要がなく、そのうち経営はギリ貧になっていくだろう。今なら

ば、まだ施設として売れる可能性もあるが時間が経てば古くなって誰も買わなくなる。また、今の状況が続くと医者への補充がなく、救急にまわらせる先生がどんどん減っていき両病院の当直体制が限界を迎えることになる。

- ・すでに長浜赤十字病院は京都から先生が来なくなり、市立病院の先生は半分非常勤で救急を回しているという状況を市民が知らないままです。このままでは長浜市の地域医療体制は徐々に崩壊していき、病気の人が暮らせないまちになってしまう。
- ・中核となる病院があつて安心感を持てるまちになってほしい。例えば、佐久市は長浜市と人口規模や面積も近い自治体であるが、医者の数が数倍違う。マグネットとなる病院があり、すべての診療科が揃っていることで安心感をもって人が住み続けられる基盤ができている。
- ・今後50年100年の地域医療体制として、安心して出産ができて、最後までこの地域で暮らせる地域医療が必要であり、しっかりと声を挙げていかなければ長浜市の将来は非常に暗いものになってしまうと心配している。

委員 ・地域のお医者さんが高齢で不安になる。そういうところは今後どうなることが予想されるのか。

委員 ・開業コンサルは、長浜市の南の方でしか開業を勧めない状況である。そこ以外では食べていけないという判断なのだろう。こういったことが今度は大きな病院単位で起こってきている。

・すべての地域で普くまとめるというよりは、滋賀県を4つの地域に分けて広域的にカバーしていくようになる。

・木之本地域で言えば、湖北病院に開業医の機能をビルドインしていくことになるのではないだろうか。

・長期的なデザインの場合は、バックキャストिंगの方法で、あるべき未来から辿っていく必要がある。

委員 ・今は元気なので車で移動できるが、高齢になっていくと免許返納ということにもなってくる。

・地域にはデマンドタクシーがあるが、十分ではないとの声も聞いている。

委員 ・伊香地域については、医師会で看取れる地域にしようという動きがあり、開業医が看ている在宅の方がお亡くなりになったとき、開業医がどこかに居たとしてもバックアップできる仕組みを作ろうとしている。

・生まれた場所で、住んでいる場所で亡くなりたいというのは半分以上の方が思っているところと聞いている。

座長 ・長浜市には医学生の育成のための支援はあるのか。

- ・滋賀県立大学の授業のフィールドワークに滋賀医科大学の生徒が来られており、その子は大学を出たあとに医者になるために滋賀医科大学に入り直したそうだが、「地域医療に携わる」という条件で大学に入れる制度を利用したとのこと。
- ・人材育成制度によって、「長浜で開業してもらおう」ことを条件に補助する制度にすれば、人も定着するだろう。
- 委員 田舎で開業するメリットがあればと思う。
- 委員 旧長浜の地域では3つほど新たに開業されたところがある。
- 委員 結局のところ交通が重要だと感じる。交通が便利な地域かどうかというのは重要な視点である。
- 事務局 デマンドタクシーが十分でないという意見もあったが、どういった点が課題かお聞きしたい。
- 委員 病院の予約時間に合わせてタクシーを呼んでも、色んな人を拾って行かれるので時間通りに着かないことがある。システムの解決できないかと思うのだが。
- 事務局 乗合タクシーという性質上仕方のない面はあるかと思う。
- ・全国的にスマホのアプリを使ってドア to ドアでやっておられる自治体もある。
- 委員 高齢者にはスマホアプリは使えないだろう。
- 委員 団塊の世代の方々がこれから後期高齢者になっていくが、その世代は「車移動が通常」の方々である。そのような方々の人口ボリュームがかなり増えるので、モビリティの問題をどうやって解決していくかということは非常に大きな課題である。
- ・恐らく自動運転が普及する 2030 年代になると快方へ向かうことが予想されるが、それまでの空白の 10 年をどう戦略的に進めていくか考える必要がある。
- 委員 中心地域は徒歩圏で買い物や医療機関があるが、周辺地域には十分では無くて、皆さん結構諦められている。家にストックした食料で食いつないでいるような現状が実際にある。
- ・医療は広域化しないと維持が出来ないなかで、交通課題への対応は必要。例えば、時代的にルートの作成は困っている人の声を事前に登録していけば自動的に作ることができる。モビリティの運転手不足については事業者間で相乗りできるような保険をかけたければ解決もできる。こういったことで、広域化する長浜における未来の移動はデザインできるのではないかと思う。
- ・既得権ルートを守るか、住民にとって使いやすいルートをその日その日に設定するか、どういう選択をしていくかによる。
- 座長 交通の協議会のようなものはあるのか。

- 事務局
- ・地域公共交通会議というものがある。
- 委員
- ・そこではライドシェアのような議論はなされているのか。過疎化に向けた試験的なシェア事業をやってみようというもの。
 - ・部活動の地域移行で送迎の問題が出ている。北部地域では学校のなかで部活動を完結できないので、他の学校やクラブに行くことになる。来年再来年には大きな議論になってくるので、何かしらそういった議論が長浜市でできればと感じる。
- 座長
- ・ライドシェアやルートについては既得権の話もあるため、そういったことを話し合う協議会を作ってはどうかと思う。
- 委員
- ・自分は余呉地域に住んでいるが、学校の部活動が十分にできない環境になっていて、テニスとバレーしかない上に、男子バレーの人数が足りなくなって無くなった。
 - ・移動や医療など余呉の置かれている環境がこれ以上悪くなると、「もう住めない」と考えてしまう。ライドシェアなど、歩み寄りでは絶対できると思う。
 - ・空き家バンクに関連して、資産の手放し方が分からないことも地域の課題を感じる。自分も過疎地域に嫁いできたが、「実は山がある」「どこどこに土地がある」と言われてもどうしていいかわからない。登録の方法や手放す方法など知識面での支援策があれば良いと感じる。
 - ・子どもたちの流出を防ぐか帰ってきてもらうためには働く場所がないといけない。長浜に限らず湖北エリア全体の企業と中高生を結んで、地域の企業に親しみを持てるような体験があると良いと感じる。製造業と福祉以外にも「こんな企業がある」と知れる機会としても有効と思う。
- 座長
- ・土地、特に山については地籍調査などにより資産の境界を確定させる必要がある。西栗倉村では、確定した資産を村に預けて運用するというものもしている。
 - ・東京で都市再生と言われていたときに、東京大学名誉教授の伊藤滋氏が、一番には地籍調査が必要と述べられていた。予算はどこかにはあるはずなので上手く生かしてどんどん進めていった方がよい。
- 委員
- ・空き家バンクに登録してもらうとき、登記簿とか、地籍調査とか、そういうことをどう説明・指導する体制はできている。
 - ・事前登録制度のようなものを作っておけば、もっとマッチングがスムーズに進むと思う。
- 委員
- ・事業一覧を見比べたときに、「定住自立圏共生ビジョン」の方は成果が書いてあるが、「過疎地域持続的発展計画」の方は書かれていない。過疎の方にも成果が書いてあると市民にもわかりやすいと感じる。

- ・子どもたちがお仕事体験で農業させていただいて非常に喜んでいました。そういった経験は重要だと思う。
- ・ボランティアをしたいと思っている子どもたちとボランティア先をうまくマッチングさせる仕組みや、交通費などを支給する制度が行政があればいいと感じる。

4 その他

事務局 ・長浜市人口ビジョンの見直しについて

5 閉会

事務局 服部課長代理より閉会の挨拶

以上